

後世に伝える 伝統の業

山崎政三郎さんは、青年の頃より刷毛作りに興味をもっていました。

大正四年、山崎さんが二十九歳の時に、本格的に刷毛作りを学ぶため、妻のつたさんと共に、その当時、刷毛製造が盛んだった大阪に修行に行きました。

山崎さんは、住込みの見習いとして、刷毛作りの習得に努めました。そこでは、一定の制度（掟）がありましたが、山崎さんは、

「私は年齢的にも最短の年月で刷毛の作り方を習得しなければならない。」
と言って、妻のつたさんと秘訣とする技術を分担して覚え込むことを考えました。さらに、時間外遅くまで残って夜も修行を行いました。たくさんの苦労の末、わずか三年で秘伝とする技術を体験によって身につけることができました。

甚目寺に帰ってきた山崎さんは、甚目寺の人々に刷毛の作り方を教え、甚目寺は刷毛づくりで有名になりました。
昭和四年頃には、甚目寺に六件しかなかった刷毛屋も、最盛期の昭和四十年代には一五〇件、刷毛の仕事をしている人は二〇〇〇人、刷毛の生産高は全国の七割を占めるまでに成長しました。

山崎さんは、甚目寺の産業功労者や、全国における刷毛工業の功労者として表彰されました。そして、七十七歳の時には、功績を称えるための石碑が作られました。

甚目寺に一大産業を築き上げた山崎政三郎さんは、昭和四十一年、八十歳で亡くなりました。

